

袋井市指定民俗文化財

富士浅間宮の田遊び

袋井市国本にある富士浅間宮では、毎年、正月三日に「田遊び」という民俗行事が厳かに行われています。

日時 毎年 1月3日
10時頃から

会場 富士浅間宮
袋井市国本964



富士浅間宮 は、今から千二百年程前、征夷大將軍の坂上田村麻呂によって山名の神社として建立されました。

天正年間(1573~1592)には、武田の兵火によって社殿は総て焼失しますが、天正18年(1590)地頭の本間源三郎が再建し、寛永15年(1638)久野城主北条氏重によって現在の場所へ移築されました。この檜皮葺き屋根の本殿は三間流造りの社殿建築で、国の重要文化財に指定されています。



会場案内



駐車場は有りますが止められる台数が少ないのでご注意ください。
当日、会場への直接の連絡先はありません。

※悪天の場合中止になることがあります。

富士浅間宮の田遊び は、田打ち、田植え、弓取りの順番で稲作のまね事を地域住民が拝殿で演じる行事で、田植えまでの様子に重点が置かれ、田植え後を省略することに特徴があります。

富士浅間宮の田遊びを見てみよう



1 田打ち

大きな音を立て田の中の悪いものを追い払うという独特なもので、はいでん拜殿の床を田に見立てて、くわ鍬で田を耕すように柳の枝で床を打ちます。



2 田植え

清められた田になえ苗を植える所作を行います。さかき拜殿床の板の間に榊の葉を苗に見立てて差し込み立てていきます。



3 弓取り

とり お鳥追いのことばを唱えてがいちようじゅう害鳥獣を追い払って、一連の行事が終わります。



You Tubeで実際の映像をご覧ください。[約14分]
袋井市立図書館でDVDの貸し出しも可能です。

ここだけの話

「富士浅間宮の田遊び」は、柳の枝をくわ さかき やなぎ鍬、榊や柳の枝を苗に見立てていることや、お供えものの中に、生きたままのこい にわとり鯉や鶏がいることも一見の価値があります。なお、神事が終わると鯉は池に、鶏は飼い主に返却されます。



イネの豊作をお祝いする正月の行事。でんがく田楽もこれに発しています。稲作の様子を演じてその年の豊作を祈願するもので、多くは新春に行われます。田遊びという呼称以外にはおんだ おたうえ御田祭・御田植祭・はるくわ はる たう春鍬祭・春田打ちなどとも呼ばれています。地方によって違いはありますが、田起こしから田植えまでが多く、刈取りまでが演じられるところもあります。

静岡県西部に伝えられる豊作を祈る民俗芸能

富士浅間宮の田遊びが伝承されている袋井市を含む静岡県西部は、かつては遠江国と呼ばれ、全国的に見ても田遊びが豊富に伝承されています。しかも、田打ちから稲刈りまでの過程とともに、倉入れ、稲むらといった演目を加えた最も発展した型のものが多く見られます。そして、伝承地域に偏りが見られ、おおよそ天竜川上流域の浜松市天竜区の水窪町を中心とするもの、都田川水系、小笠山周辺という三つの地域に分けることができます。



法多山の田遊び

静岡県指定無形民俗文化財
国記録選択無形民俗文化財
催地：袋井市豊沢 尊永寺
催日：1月7日